

GP工場によるGPマーク普及への取組み

—第47回GP工場交流会から—

GP工場によるGPマーク表示への取組みが進んでいます。第47回GP工場交流会(2021年10月27日開催)では、GPマーク普及大賞受賞の株式会社北四国グラビア印刷、GPマーク普及準大賞受賞の伊藤印刷株式会社に具体的な取組みについて、講演していただきました。以下、取組みをご紹介します。

取組み事例①

全社員によるSDGsの理解と印刷発注者の思いを知ること

株式会社北四国グラビア印刷

管理部長 木下和昭氏

営業チームリーダー 長 新居雅人氏

当社は、グラビア印刷方式で軟包装資材を製造している。パッケージの用途の大半が食品であり、食品会社と同じ衛生管理により製造している。デザイン、製版、印刷等各工程を社内ですべて完結させる自社一貫製造体制が特徴である。

環境への取組みとしてはSDGsを軸とした事業展開が大事であると考え、まず、社員のSDGsの理解を深めるため「2030SDGsカードゲーム」を実施した。また、営利活動と社会貢献のそれぞれの輪が重なるように考え、高い目標、新しい取組みを行っている。具体的には、社員による海ごみ調査、トラックの積み方の工夫(一回の積載量増加)、ごみ処理施設の分別処理の見学など、現場を知ることによってどのような輪をもってお客様に提案できるかの基礎とした。さらに、消費者や発注企業の意識が変わらなければ環境負荷の低いパッケージを採用してもらえない現実も実感し、発注者、仕入れ、地域の方々の参加による「2030SDGsカードゲーム」大会を主催した。

次に、GPマークが表示されるまでの事例を紹介する。



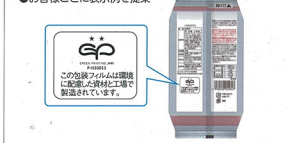
GP推奨のデザイン

お客様に環境配慮のニーズが高まっているなか、GPマークの紹介リーフレットを作成し、提案を開始した。

たとえば、取引先のスーパーからパッケージを含め、環境に配慮した商品の提供がさまざまな、日々聞かれています。そこでGPマークの提案をす

るが、記載するための表示面積がとても小さいためスペースを捻出できるか、個包装の商品にどのようにマークを入れるかなど悩みがあつた。そのようなことから、**イメージが付きやすいように、GPマークに環境配慮のメッセージを付けた表示例を作成して実際の商品に落とし込んで提案した。**最初はサイズが大きい詰め合わせをしているような商品に提案。打合せを重ね、シリーズ商品に統一してマークを入れることとした。この結果、**お客様の環境配慮したいという思いを見える化することができた。**

●お客様ごに表示例を提案



メッセージ付き GP マーク表示例の提案

次に、遊園地等の商業施設、観光地での商品。観光地では商品の食べ歩き、ボイ捨ての問題がある。これに少しでも訴えることができないか、**環境に配慮した取組みをしたいというお客様に対し、GPマークを提案すると喜んでいただきた、いち早くGPマークを採用された。当社では最初にGPマークが付いた事例となった。**

次に生活雑貨の事例。パッケージ製造をお手伝いする中で、環境配慮を意識した入浴剤のパッケージの注文があった。木桶の製造時に用いるかんな屑を原材料にした商品づくり。さらにSDGsの取組みの一環として、売上の一部を日本の森林や里山を守る活動「工藤の森」に寄付している。このような商品に、GPマークを提案するととても共感された。販売店からもあまり見たことのないマークでとても喜んでいただいている。商品の企画コンセプトとGPマークのコンセプトが一致した事例である。

GPマークの提案により、お客様と環境配慮について話をするきっかけになる。お客様の商品への思いや背景、ストーリーを知ることができ、**その他の環境配慮の提案など新しい展開に繋がっている。**GPマークの提案は、一緒に出来ることのきっかけ、環境への取組みのスタートと感じ

ている。GPマークの取組みの内容にも共感いただいているが、一番のメリットは、認定工場で製造している製品に、このGPマークが表示できること、GPマークが採用される幸せを感じている。

取組み事例②

営業担当の熱意とGPマーク表示の重要性

伊藤印刷株式会社

代表取締役 伊藤誠司氏

当社は三重県津市、従業員36名のオフセット印刷会社であり、4年連続GPマーク普及準大賞を受賞している。

GP工場認定は2014年9月に取得。次の3つに分けて取得した。①従い員の健康対策、②地域社会への環境対策、③他社との差別化と将来への期待。特に自自治体の発注条件などとなるを期待している。

環境活動の周知としては普及使用している名刺がある。従業員が使用する名刺にはGPマークのほか3つの配慮がなされている。文字・Uni-Voice 音声コード・ナナナバーである。お客様へはナナナバーのほかには、紙、デニム、三重ブランドの伊勢和紙を環境エコ名刺製品として提案している。



GP推奨のデザイン

目的であったGP認定の次にしたことは、GP工場しか出来ない印刷製品へのGPマークを普及させることと考えた。当社の得意先へは、GPマークを付けたことができる印刷用紙を種類を揃え、営業担当者が数社を社内内外から簡単に社外にもした。この結果、GPマーク付印刷製品の受注件数は、年間目標100件に対し

2014年が99件、2015年が130件、2016年以降200件を超えている。現在、従業員のプレッシャーにならないように200件を目標とし、社内の各部署に目標200件その商品GPマーク付け忘れていませんか」と掲示している。再生紙不足の悩みは、FSC 森林認証紙に切り替え対応した。次に、お客様に伝えやすく、営業が説明しなくて済むようチラシを作り、発注の方に提示している。工程の環境配慮と印刷用紙によるコストの差を説明の上、環境対策の証(あかし)ですと説明している。説明をすればGPマークを付けないという話は今までない。ただし、営業担当の熱量によって差は出る。営業担当ごとに毎月のGP表示実績を表にしているが、実績の少ない営業担当には声をかけている。

他のGP工場との連携では、販下データを自社で作成し、印刷を他のGP工場で行ってもGPマークが付けられることを知り、お客様表示がしやすくなった。

当社は報告書、成績書、学会誌などページ物が多く、行政発注のものや再生紙を使用していることから、GPマーク表示に抵抗がない。特に県の各課、市町村、外務局等に配布される印刷物は、県内にGPマークを見出しの絶好の機会である。特定の印刷製品にGPマークを表示し、県知事に直訴したこともあった。学校関係は環境配慮の証として保護者に見てほしいと提案し採用されている。

GPを周知する機会として、「三重県おもてなし経営企業選」に応募。①GP工場であること、②GPマークが付けられること、③MIDで見やすい印刷物を提供できること、④SMSを軸にしたデータ管理体制をアピールし、「人と環境に優しい印刷会社」として受賞した。また、新聞の取材を受けた際に、GPマーク普及準大賞受賞企業として記事になった。

SDGsについては、SDGsのどのゴールが当社の事業と関係するのかがわかるように、印刷物を作成し、従業員に配布した。

SDGsは、さまざまな資源を利用する中、環境問題にいち早く取り組む。環境対策に前向きに取り組む印刷企業のイメージを高める。GP工場が各県で増え、印刷発注時にGP認定企業に発注することが社会の責任となるよう期待している。



GP マーク表示の印刷製品

全日本シール印刷協同組合連合会

「第31回シールラベルコンテスト」
作品集完成・頒布のご案内

全日本シール印刷協同組合連合会(会長田中祐)では、この第31回シールラベルコンテスト 応募全作品集(A4クリアファイルに応募全作品の実物を貼付・印刷データシート付)が完成し、頒布を開始した。

本作品集は、第31回シールラベルコンテストに応募された全作品を網羅して、作品製作に際しての使用の印刷機械メーカー・使用インキ・使用原紙材料銘柄などの他、作品の用途・機能・製作秘話などが記載されています。

この他、コンテストの総評・所感(技術副委員長談)を掲載致しております。

シールラベルの印刷・デザインに携わる皆様方にとりまして貴重な資料、ビジネスのヒントになるものと確信しております。

なお、部数に限りがあるため(60冊)先着順とさせていただきます。

価格は組合員・会友・協賛会員は1部24,500円(税・送料込み)、一般は1部33,000円(税・送料込み)です。また、バックナンバーの作品集も在庫がある分は別途特別価格にて頒布致しております。

それぞれの購入ご希望の方は、お早目に全日本シール印刷協同組合連合会事務局(TEL:03-5830-6788、FAX:03-5830-6787)へお問い合わせ下さい。

「原材料費高騰に対応する価格改定の
お願い書簡」をまとめた

当連合会では今秋以降粘着紙はじめインキ、版材料等の値上げに伴いその対応について注視、静観してまいりましたが、傘下の組合から「我々コンバーター

がクライアントに対して値上げを依頼する場面の一助になるような声明を出したほうがいいのではないか」という声もあり、臨時理事会を開催して検討してきた。

そんな中で、2つのポイント(全印工連が会長名で印刷副資材の値上げに伴う価格協力のお願いという書簡をまとめた。経産省、中小企業庁が9月を「価格交渉促進月間」として取引価格の適正化に促しているように促した。)から当連合会でも「原材料費値上げに対する対応についてシール・ラベル製品ご発注に関するお願い」の文書を作成して希望する場合は使用して頂こうということにした。

使い方の一例は、

- ① メーカーからの価格改定に関する書簡、
- ② コンバーターが取引先にお断りする書簡、
- ③ 「原材料費値上げに対する対応についてシール・ラベル製品ご発注に関するお願い」

の文書の3点をセットにして活用してもらえればより説得力をもって交渉の席に臨めるのではないかとという視点です。

全国グラビア協同組合連合会

待ちに待った晴れの日、恒例の記念撮影

待ちに待ったという感の、日本印刷産業連合会の「2021年9月印刷の月 記念式典」ですが、やっと昨年11月29日午後1時半より、東京・ホテルニューオータニ「鳳凰の間」において開催されました。まだまだ入場者数の制限の厳しい中ではありましたが、全グラの田口 薫会長を始め、何名かのグラビア印刷業界関連者の姿も見受けられました。

既に報告済ですが、我が全グラからは、団体運営を通じて印刷産業の発展、向上に寄与した人に贈られる「印刷功労賞」を山下雅裕氏(柳巧芸社 社長、全国グラビア協同組合連合会理事、関東グラビア協同組合副理事長)が、業務の進歩、改善に貢献された人、または多年にわたり業界指導に貢献された人に贈られる「印刷振興賞」を高松忠彦氏(熱技術開発 監査役)が受賞されました。

また、第19回印刷産業環境優良工場表彰では、日印産業会長賞を、(株)平野屋物産(母里圭太郎社長、全国グラビア協同組合連合会副理事長、九州グラビア協同組合副理事長)が受賞されました。

皆様、誠にありがとうございます。式典終了後には、恒例の記念撮影を執り行いました。以下の写真は、会場にいらした、熱技術開発の遠藤良行会長にも無理やり加わっていただき撮影したものです。



左から、熱技術開発の遠藤良行会長、印刷振興賞を受賞した高松忠彦監査役、印刷産業環境優良工場表彰日印産業会長賞を受賞した平野屋物産の母里圭太郎社長、全グラの田口 薫会長、印刷功労賞を受賞した柳巧芸社の山下雅裕社長

■記念式典の第2部では、GP 環境大賞等表彰式が執り行われ、新設された GP マーク普及大賞グラビア・シール・スクリーン印刷部門では、(株)北四国グラビア印刷(奥田拓己社長、全国グラビア協同組合連合会理事、関西グラビア協同組合副理事長)が大賞、(株)柳巧芸社(柳巧芸社 社長、全国グラビア協同組合連合会理事、関東グラビア協同組合副理事長)と東包印刷(安永研二社長、全国グラビア協同組合連合会副理事長、関東グラビア協同組合副理事長)が準大賞に



日印産業の藤森康彰会長から表彰を受ける北四国グラビア印刷の奥田拓己社長

輝き、同部門をグラビア3社で独占しました。いずれも全グラの役員として業界を牽引している方たちです。今後の活躍にも大いに期待しています。